

会議報告

会議名称	「元気な入間」まちづくり推進・協働ガイドライン策定会議 第3回会議
開催日時	平成19年1月22日（月）午後2時00分～4時00分
開催場所	市民活動センター 3階 活動室1
出席委員	岩崎廣司・上原保夫・太田恵子・岡野 亘・北田尚美・亀谷容子 斎藤次雄・齋藤光明・清水英弥・清水洋行・関谷佳代子・原口喜代美 鳥山政之・堀夫紗子・宮岡利幸・渡部直也 以上16名 アドバイザー 犬塚裕雅
欠席委員	瀧澤良生・文字山啓子
傍聴人	なし
事務局	中澤主幹・國田主査（司会）・石原主査（以上、企画課）
会議の概要 及び 決定事項	<p>1. 開会</p> <p>2. 会長あいさつ 渡部会長</p> <p>3. 議事</p> <p>(1)協働ガイドラインに対する認識の共有化と形成について</p> <p>前回、前々回に引き続き協働に対する認識の共有化について検討した。</p> <p>[主な意見]</p> <p>今日配付した資料には協働についての考え方などが書かれており、自分たちの考えを整理する上で参考となると思う。</p> <p>例えば、協働の土台は市民参加で市民参加には段階がある。この辺のところを自分たちの中で共通の認識を持っていかなければならないかと思う。</p> <p>市民参加と協働との関係がポイントとなってくると思う。</p> <p>まちづくり基本条例の中でも市民参加とか、まちづくりとかと言っているが、どのようなまちづくりをイメージしているのか。</p> <p>市民参加には、例えば事業への企画・立案を行うことや、情報交換や情報共有を行うことや名義の後援などの参加の仕方があるようだ。</p>

協働ガイドラインにおける市民参加の定義付けが必要なのではない
か。そこを固めておかないといけないと思う。

協働を行う時に、どうやって誰に市民参加を呼びかけて、おおよけに
していくのかによって変わってきてしまう。

ガイドラインの必要性について、もう一度確認をしたい。

資料には、行政サービスをどのように補完するのかとか書いてあるが、
皆さんはどのように考えるか。

ガイドラインをどう活かしていくか。何のために作るのかを、個人的
には市民と行政の間のみではなく、もう少し広い範囲で検討してい
きたいと思うがどうか。

協働を考えた時に、既に行政が行ってきたことの一部分を切り出して
そこで協働の事業を行っていく場合を考えれば良いのか、そもそも協
働という事業があってそのための体系を作っていくのか。事業は何か
ということも含めて整理をしていくべきか。

ガイドラインがマニュアルなのか、ルールなのか、理念なのか、まだ
分からないが、それをどこにするかによって到達点が定まってくると
思う。

策定会議の前のオリエンテーションでは、その中の意見では行政と
市民との協働に絞って意見が出ていた。それでいて、あれだけの認識
の違いがあった訳ですから、ここで民間と民間との話しになると、こ
の会議の焦点が絞れないまま、全然進まないのではなか。どこかに絞
った会議にしてほしい。例えば、行政と市民の協働についてとか、市
民参加についてとか絞ってほしい。一回一回の会議を大事にして、次
の会議への繋げるようにしてほしい。

資料3では策定会議についての検討事項はこの5項目である。協働の
原則の中で、市民参加が出てくる訳であり、出来れば具体例があった
方が考え易いと思う。検討事項の順に考えいくのかと思う。

最初の会議の時には、1回目、2回目の会議については認識の共有化
をするためには、いろいろな意見を出し合おうということだっ
たと思うが。市民と行政だけの協働ではなくて団体同士の協働もあつ
ていいのではないかと思うが、それでは、この会議では範囲が広すぎ

てしまうので、この中で絞って議論をしていくという方向性が出ればそれはそれでいいと思うが。

議論を整理しながら行っていけばいいと思う。

協働とは、誰が、何を、どうやって、行っていくのかの共通認識を持っていく必要がある。

誰がは、市民と行政。何をは、まちづくりや公共サービス、地域社会での課題。どうやっては、対等な関係、互いの特長、役割分担、情報共有、公開など。

情報公開については、どの範囲で公開をしていかなければならないのかは非常に難しい問題です。今後、検討していきます。

行政経営における、まちづくりを協働するとはどういうことなのか。どのようなものがこれに当たるのかは、興味があるところですが。

具体的な事例をベースに検討をしていければと思う。

例えば、生涯学習フェスティバルで実施した、放課後の子ども達の報告書などは市民だけではこれだけのものは出来なかったと思うが、これらの動きを詳しく教えていただき参考としてみたらどうか。

どうやって進めるのがいいのかと考えた時に、例えばマトリック分析を行い、縦軸横軸の中で、強味、弱味を抽出し、弱味を補完しながらより完成度の高いものを作っていくことがよいと思う。

連絡会が相当の熱意をもって窓口へ来たことにより実現をしたが、行政は往々にしてそれを突っぱねてしまう。市民が提案をして、それに行政が乗ってくるようなことはあまり無い。

ケース・バイ・ケースで参加の仕方が変わってくる。また協働の仕組みが変わってくるのではないか。

まちづくりの観点でいえば、市民から申し出ることも協働の一つです。協働はあくまでも手段であることを認識していればよいが。

行政側から切り出して行うやり方と市民の方からこうしたらいいというやり方と両方ともやりましょう。

協働の窓口をしっかりと確立しておかないといけない。

協働を考えていく上で子育てマップの事例は重要と思う。

また、総合振興計画も次の協働の大きなテーマになってくると思う。子育ての関係は次回、経緯を含めたメモを出していただくとありがたい。また、行政側からのものも出していただければと思う。その中で何を協働の対象とするのかを考え、役割分担等をガイドラインの中で明文化させていくことが大事だと思う。

考えるべき点として、市民参加の方法、目的・目標として何を協働の対象とするのか、役割分担、責任や権限等について挙げておく。

犬塚アドバイザー

事例をベースに検討していくことは大事なことである。実際に市民活動団体へ伺うなどし、事実やデータに基づいた検討をしていくことも必要だと思う。

協働とは何かについては、いろいろな資料や基本的な概念も出ています。入間市で行う協働はどうか、というやり取りが重要な訳です。また、一般化、抽象化している理論との整理や、他事例との比較検証も大事になってくるのではないかと。それにより、いい形のガイドラインが出来上がっていくのではないかと。思う。

次回の会議では、具体の事例を基に検討を更に深めていきたいと思う。ガイドラインとして、必要な部分の整理を行いたいと思う。行政として考えなければならない点、市民として考えるべき点などをキーワードとして整理し、段々に焦点を絞っていければと思う。

4. 閉会

※次回会議 平成 19 年 2 月 19 日（月）午後 7 時～

会場：市民活動センター 活動室 1

次々回会議 平成 19 年 3 月 19 日（月）午後 2 時～

会場：市民活動センター 活動室 3